

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2199回★ 初登山 梅ノ尾 峰山 (537.6m)	平成11年1月10日(日) 9:00 市バス高雄バス停集合	大倉寛治郎 (内 4622) (外 642-4332) 井戸 澄夫 (内 810) (外 822-9181)	
参加希望者は、平成11年1月8日までに担当者にご連絡下さい。 当日は、各自モチを持参して下さい。山頂でぜんざいをします。 参加料は500円です。			
第2200回★ 野沢温泉スキー	平成11年1月13日(水) ~16日(土) 13日 23:00 京都発	大倉寛治郎 (内 4622) (外 642-4332)	
参加希望者は、担当者までご連絡下さい。 定員15名になりしだいしめ切ります。 今回は、ペンション「メジューブ」に宿泊予定です。(TEL 0269-85-4376) 費用は約35,000円です。			
第2201回★★ 雪と遊ぶシリーズ1 雲取山	1月30日(土) 7:30 叡電出町柳駅集合	山岡 昭弘 (796)	出町柳ー花背高原前…寺山 峠…雲取峠…雲取山…二ノ 谷・三ノ谷出合…芹生…旧 花背峠…峠下ー出町柳
参加希望者は、担当者まで、ご連絡下さい。			
新年会兼今月の集会 日時 1月11日(月) 18:30 場所 松尾橋西詰下がる「網船小島」 会費 3,000円(当日徴収) 担当 鷺見敏一(外 643-3391) 山元誠一(外 822-9128, 内 583) 井戸澄夫(外 822-9181, 内 810)		企画運営委員会 日時 1月20日(水) 18:30 場所 厚生会館 4F 大教室	



平成10年(1998)もまもなく終了である。平成11年はどのような年になるのか。ウサギのように跳びはねるような景気のよい年になってくれるのか。あるいはますます不景気になるのか。

この一年を振り返ると、何といても経済の沈滞が特徴的である。90年代初頭のバブル崩壊以降、「ジャパン アズ ナンバーワン」とまでいわれた日本的経済システムが根底から揺らいでいる。特に金融機関の相次ぐ破綻はとうとうくるべきものがきたかという感がある。土地や株の値段がピーク時の半分以下になり、不良債権の処理の過程でやむを得ないことになるのであろうが、銀行が一つ破綻するという事は、それに連なる企業群の破綻を意味するだけに影響は大きい。しかし、現在の状況がバブルの絶頂期に比べて悪いのかというと、必ずしもそうではないように思う。一億総不動産屋といわれ、土地や美術品を転売するだけで巨額の利益を得た連中が幅をきかせていた時代であった。当時そうした行為に走った企業が、今、痛い目にあっている。経済の基本は、良質で勤勉な労働力が良質な商品を作ることであり、日本経済のファンダメンタルズはそういう意味では変わっていないはずであり、今が正常に戻ったというべきであろう。ただバブルの後遺症が癒えるまでは景気の沈滞が続くのであろうが、不景気が10年以上続くことはまずないであろう。

山岳部の活動は景気とは無関係に推移したようである。むしろ、金のかからない健康的で手軽なレジャーとしてますます見直されつつあるのではないかという気がする。京都市交通局山岳部は平成11年夏で創部50年の節目を迎えることになる。初代部長の近藤氏も健在であり、諸先輩方には感慨深いものがあると思う。50周年記念のとりくみとしては、記念誌の発行と記念品の配布、7月には記念集会(キャンプファイヤー)、8月には海外記念登山、秋には国内の記念登山を予定している。50年の重みをズシリと噛みしめるとともに、これからの50年に思いを馳せる年にしたいものである。

(H.10.12.18. 記. S.I)

【第2193回例会】

権現山 II△526.7m

竹田 勉

11月7日、参加者8名が2台に分乗し、壬生車庫を予定通り午前8時に出発した。亀岡、福知山から加悦へ、京都縦貫自動車道、国道9号、175号、176号を經由し午前10時半頃滝峠に到着した。空一面雲に覆われてはいるが、雨が降る気配はなく安堵した。立冬を明日に控えているにもかかわらず、まだ山の紅葉は色付き始めたところであった。

本日の登山行程は、2万5千分の1地形図「大江山」加悦の滝峠から破線路を北に登り、加悦奥への峠から東に道を取り権現堂跡、権現山に登頂。帰路は、先の峠まで戻り府県境尾根づたいに滝峠へ下るというものであった。

峠に駐車して京都府側に少し下ると「権現」の標識があった。奥を覗くと藪の中に踏み跡が確認できる。小谷沿いにその径をたどると沢渡りの場所で今秋の大雨のためであろうかとぎれて、破線路をたどれなくなった。やむなく谷の行く手右に方向を定めて登ると山腹を巻く破線路へと出た。少し行くと広場があり、せせらぎに喉を潤し休憩。再び行く手を藪に隠され、右手（東）尾根に登ることとした。急坂を熊笹、雑木を手掛かりに登りきると権現山手前小峰より南にたどり着く。方向を北に修正し小峰から権現山までは予定通りの径を行き、午後0時過ぎに登頂。山頂は10人程が食事するのに適した広さであり、周囲は所々木々に遮られはするものの360度見渡すことができた。今回京都府下の1、2、3等三角点（500m以上）182座完登の大槻さんを祝し乾杯を行った。昼食後午後1時過ぎに頂上を後にする。下りは小峰より権現堂跡をまわり加悦奥への峠に至った。付近の木に色あせた赤テープを見て、ここが峠越えの交差点である鞍部と知る。ここより府県境の尾根へと向かった。目的の尾根の峰に出て南に方向を変えて滝峠に向かうが、枝尾根が多く2度方向を間違え、1度は修正したが2度目はそのまま谷へ降りた。降りたところは、登りきわに休憩をとった小沢沿いであった。往路を下りときれた径を確認し滝峠へと出た。午後3時過ぎに下山後、帰路した。

大槻さん、京都府下の1、2、3等三角点（500m以上）182座完登おめでとうございます。

【参加者】 井戸澄夫、大槻雅弘、大槻夫人、方山宗子、坂井久光、古市昌造、
和田良一、竹田 勉

続・蔵王周辺の山々

三 橋 勉

9月と同じく仙台駅に地元永浦さんと今回は庄子さんのお出迎えを受け、マイカーに便乗させてもらって、前回登れなかった糸岳（日本山嶽志は龍駒嶽 全山火山岩ヨリ成ル標高凡二千尺）に向かう。

途中から峠方面を見ると、辺りは紅葉していてそのうえに磐司岩（名の由来はマタギの祖、磐司磐三郎）があり糸岳には、うっすらと新雪の山が見えてきた。

二口峠手前でお弁当をいただき、午後1時25分峠を出発する。この辺りはすっかり落ち葉が散ってしまって、その落ち葉の絨毯を踏みながら尾根道を登り出す。だんだん高度を上げて行き、振り返ると新雪の仙台神室と右に山形神室も見えてきた。

やがて辺り一面が、すばらしい霧氷の銀世界となり、薄日もさしてキラキラと輝いていて感激した。右の南の方向に仙台市内の太白山、そしてその向こうに太平洋が見えた。息をきらしながら70分で山頂に到着。三等三角点1,227.6mである。万歳三唱する。北東方向に9月に登ったボリュームのある大東岳一等三角点があり、そして北には面白山が、西には山寺がよく見えた。今年は暖かであったので、タイミングよくこの時期に登れたことを感謝しながら下山した。

夕方に今日の宿、蔵王スカイパレスに到着し、ゆっくりと温泉に入り今日の疲れを癒した。スキーシーズン前なので宿はすいていた。

翌朝（11/10）6時半に宿を出発。コンビニにより、JR蔵王駅の踏切りを越え348号線を南西に走り、狸森（むじなもり）の元屋敷から南南西約2キロはいった地点で駐車する。山形県の上山市と南陽市との境にある黒森山へ登るため8時5分前出発。しばらく林道を進む。右に「間伐展示林」という看板があり、境界標識を辿りながら急登する。途中でキノコがあった。急な登りをジグザグに登るとやがてユリ道になり南へ10分ほど行くと、右（東）に菅という在所がみえた。そこから左手の比較的藪の少ないところを登って行った。だんだんとゆるやかになった辺りで右に進むと、自然林の中に色づいた赤や黄色の葉っぱが印象的であった。どこが頂上かわからない広いところで、辺りの中ほどにきれいなたずまいを見せている二等三角点810.6mがあり、そのそばに境界見出表黒森山とかいてあった。（永浦さん達が事前に見下ろしていただいたおかげである。）9時25分で約1時間半かかった。

林道におりた帰り道でクルマが上がってくる音がして現れた人は、キノコ研究・鑑別士で、鏡重徳という名刺をいただいた。

元きた林道に戻り348号線を西にトンネルを越えると、小滝街道を南下し、荻というところで、かなり有名人も訪れているという「源蔵そば」で昼食のおそばをいただく。

奥羽本線の中川駅付近の踏切を越え、昔の峠越えの途中にあるお宮さんの前に駐車。午後1時40分、ゆるやかな登りを進むと、やがてジグザグの登りとなり、ここにもキノコがあった。30分で峠の尾根に到着する。そこから尾根づたいに急な登りとなり、小1時間かかって一等三角点大洞山737.2mに到着、3時5分であった。雑木林の中で展望はよくなかった。

蔵王温泉に戻り、もと湯に入りに行こうと思っていたが、秋の日暮れは早くもう真っ暗であったのであきらめた。

翌朝(11/11)5時半雪になった宿を出て、仙台方面に走って行き笹谷トンネルを越えるときぞれとなり、その先でご来光が拝めた。「朝雨は女の腕まくりや」と伊藤さんが言って、たいしたことはないと言う、説明をしていると、なるほど東の空が明るくなってきた。

松島方面に行くため、仙台市は丁度ラッシュにばかり渋滞した。石巻へ行く高速道路に入りパーキングで朝食のおにぎりを食べた。コバルトラインを走り牡鹿半島の南端にある鮎川から船に乗り、金華山(日本山嶽志によると陸前国牡鹿半島ノ東南端ヨリ一葦ノ海峡ヲ隔テテ、太平洋ニ屹立ス、船ニ上リ海峡ヲ東渡スルコト凡三十町、黄金神社ニ上陸シ、磊落タル花崗岩塊ヲ踏ミ、松・縦・杉・山毛櫨・榎・枹其他雑樹の鬱葱セル間ヲ登リ、時々猿・鹿ヲ認メ…頂マデ十六町、頂ニ海神命ノ小祠ヲ建ツ、此所ヨリ眺望セバ太平ノ洋水浩渺トシテ、地平線ヲ限り、西ニ松島ノ八十八島ヲ… 標高千四百六十九尺)をめざす。

25分の船旅で金華山港に到着。5分のマイクロバス乗車で黄金山神社に到着。神社の階段を登って行くと登山口があり、10時半出発。左の御沢掛コースを登ることにする。巨木のある道を登っていくと、ケヤキの根が露出しているところがあった。途中で鹿に会う。お地藏さんが2体並んでいる水神社があり、そこからわずかで尾根に出ると、太平洋が見え小さな島もみえた。新奥の細道と書いた標識があり八合目と記してあった。10分で二等三角点金華山445mに11時40分到着。祠があり、展望は抜群、ぐるりは海、お猿さんもいた。船が1時間で出るので、残念ながら長居はできない。12時45分の船に間に合った。帰りは窓にかぶるほど波が高く、欠航されなくてよかった。

鮎川で駐車してあった車に乗り、コバルトラインを2/3ほど戻ったところで駐車。破線路を西南西に約1キロ35分登って行くと、大六天山一等三角点(標高千四百三十二尺・440.3m)に午後3時10分到着した。頂上には西側から林道が登って来ていて、フェンスのある建物が建っていた。先程のぼった金華山が南西方向に山の間から首を出していた。今夜の宿は松島タワーの隣のパレス松洲に泊まった。

翌朝(11/12)、朝日の明るさで目覚めると、部屋の窓から、天下の松島のご来光が出て来たところであった。松島の島々が赤く染まり海面が反射して、かばらしい眺めであった。

松島の展望台を案内してもらって、カキの養殖場で生カキをよばれて、今回の最後の山である一等三角点笹岳に向かった。346号線沿いの東北本線鹿島台駅から右折そして左折して湧谷町から、車で行ける笹岳観音のある一等三角点笹岳(山巔ニ観音堂、山腹ニ笹峰寺、東ニ北山、南ニ鳴瀬、北ニ迫川ノ三大河ヲ帯ビ、四遙ニ羽前國境ノ高嶽ヲ負フ、目下短臺谷地ニシテ、其眺望尤奇絶ナリ、標高八百五十一尺・222m)に午後1時半タッチして、帰り道に、松島と仙台の間に

ある「一等三角点 番ヶ森山」210.6mにも登りたかったが、残念ながらこの間の台風で、林道が壊されているとのことであった。

同行者の伊藤先輩とともに地下鉄の八乙女駅に送ってもらって今回の山旅は終わった。

【第2195回例会】

越前甲と荒島岳

梅津 吉田 武

13日、紅葉の山恐羅漢山に登ろうと計画をしたが、僕と森本さんの2名だけなので行先を変更して1泊2日の山行に切り換える事にした。森本さんが長い間登っていない荒島岳に登りたいと言われるので越前甲と2山に登る事にした。

修学院から途中越えてR161を敦賀まで走り、敦賀ICより福井ICまで高速道を走りR416を勝山市から国道終点の横倉、野津又川の上流に駐車した。

左手の林道を少し入った所に甲と書いて矢印がしてあってコースが雑草の中はっきりとついていた。雑木林の中に入ると落葉とぬかるみのミックスで歩きにくく時々滑る道になった。ゆっくり歩いて大日峠についた。正面に加賀甲（大日山）が高く見えていた。振り返ると白山や願教寺山が雪をかぶって美しい姿で見えていた。峠からは急登又急登、そしてよく滑るがロープが所々に張ってあるのでそれにつかまりながら1時間程で頂上についた。

近くには加賀甲や遠く荒島岳、部子山や銀杏峰が良くみえた。三角点の写真をとり早々に下山した。しかし足元はよく滑る、何度も尻もちをついでやっとこさで車止についた。

大野市で買物をして勝原スキー場のテント地（ヒュッテの草地）でテントを張って明日を迎える事にした。

14日、テント地を7時半に出発してスキー場の駐車場に行くと6台の車が止まっていた。ゲレンデの左よりのジャリ道をジグザグに4回程登るとリフトの上部についた。ここで小休止、それから雑木林の中を少しずつ高度を上げて3ピッチでシャクナゲ平についた。ここで中出コースと合流するシャクナゲ平のピークから少し下った所には佐開からのコースが合流している。

頂上まで400mの高度がある急登が、階段そして鎖などがあり苦しい登りが続くが変化があるので比較的楽しく登れた。展望はなく（ガスのため）風が強くて寒いので風の当たらない所に座って軽食をすませて早々に下山する。

シャクナゲ平からスキー場までは今日に限って長く感じた。

【参加者】 森本清一， 吉田 武

【第2196回例会】

みうね 山 と 古光 山

井戸 澄夫

12月5日の土曜日を予定していたが、私的な都合で6日の日曜日に変更させてもらった。結果的にはそれが吉と出て、前日の雨がきれいに晴れ上がり、晩秋の山を満喫できた。

7:00、竹田駅を田村氏のワゴンに6人が乗って出発。東山連峰に丁度朝日が出たところであった。桜井からR-165を榛原へ。神末から先の道はすれちがいも困難な細い道である。奥宇陀青少年旅行村の奥の林道を終点まで詰めると、標高800mの尾根である。三峰山へはよく整備されたハイキング道を1時間半くらい歩けば到着である。山頂には一等三角点(1,225.4m)があり、北と南に眺望が開けている。北には倶留尊や大洞の曾爾山群がよく見える。南の方向には台高山脈が連なり大台ヶ原で最高点に達する。山頂から南へ少し下りた八丁平からは高見山が三角錐の美しい姿を見せてくれた。八丁平でワインを飲み昼食とした。風の通り道は寒いが、枯れ草の間の日だまりに座り込めば十分に暖かい。下りは不動滝へのコースをとった。登りよりも急な道をジグザグに下りていく。途中、植林の若木を鹿(?)から守るためネットで囲いをしていた。山中の杉の木はお世辞にも手入れがいきとどいてはいえなかったし、今年の台風で倒れた木も放置されているところが多かった。林業の現状を垣間見るような気がした。不動滝の参籠所までは車が進入でき、田村氏が愛車を回送して待っていてくれた。

2つ目の山は倶留尊山の南に位置する古光山(△952.7m)である。御杖村菅野から曾爾山へ抜ける林道の途中に新しい火葬場があり、そこが登り口である。登山道は火葬場の裏側で分かりにくく、急斜面を直登する新しい踏跡があったのでそこを登ったが、かなりきつかった。30分程急斜面を登り、山頂かと思うところに出たが三角点が見つからず、地図で南峰とあるところだと分かった。北側にほぼ同じ高さのピークがあり、そこが正規の三角点のある山頂と推察したが、ヤセ尾根を一旦下って登り返す必要があり、もうたくさんという意見が多かったので、次の機会にしようということになった。古光山南峰からは、ススキ原で有名なお亀池がよく見えた。また鑑岳、兜岳の特異な山容も楽しむことができた。

帰路は柳生から笠置へ抜ける道を取り、少し狭いところもあったが対向車にもほとんど出会う

ず木津川へ出た。通り過ぎる山々は紅葉のピークであり素晴らしいものであった。木津川に出て、西に方角を変えたところで、丁度、夕陽が沈むところであった。絶景であった。

【コースタイム】

7:00 竹田駅西口 — R-24 — 桜井 — R-165 — 榛原 — R-369 — 神末 —— 登山口 10:00
…………… 11:30 三峰山頂 …………… 11:45 八丁平 (昼食) 12:20 …………… 13:00 不動滝
—— 火葬場 13:40 …………… 14:20 古光山南峰 …………… 15:00 火葬場 15:20
—— 18:30 竹田駅西口

【参加者】 鷺見壽末子, 原田勝子, 小森 浩, 田村正弘, 竹田 勉,
井戸澄夫 (6名)

九州の山旅

坂井久光

11/18 山崎大造氏のお誘いで神戸港からフェリーで大分港へ19日早朝上陸。湯布院町から久住町の久住スキー場で社用をすまし、阿蘇山の根子岳登山口へ。稜線迄谷筋をつめ、支尾根を急登して登ったが岩稜でザイルなしだったので下山後高森温泉で入浴後車泊。20日は蘇陽町經由馬見原から五ヶ瀬スキー場へ行き社用完了後、高千穂町經由日之影町から北方町の比叡山登山口へ行き車泊。21日7:40出発。岩壁の下部を急登して8:17、774m峰に登頂。附近の山々は皆大崩山と同質の花崗斑岩の山で、浸蝕された岩峰の山々が多くこの山もロッククライミングの道場となっている。岩の裂け目を梯子や鎖で登ったり下ったり幾つもピークを越え9:44～58二等三角点918mの頂上に着き少憩後下山して、網瀬川を車道で遡り、上鹿川キャンプ場で駐車、13:35出発。鉾岳1,297mへ。始めは良い道だったが川を高巻いて稜線に近づくると一変して悪場の連続の急登で、上流を渡って笹中の切開を登り林道に出て高原状の台地に登り、ピークから少し下った岩峰の頂上に鉾岳の標記があった。15:20～30少憩後下山して山麓の鹿川荘で温泉に入り汗を流してから、川沿い車道を下り下鹿川で車泊。22日丹助山の山野の家へ9:30出発。山頂へ尾根道の岩登りで岩峰を越えたり下ったりして10:00～10。山頂は816mで、三角点は矢筈岳への道へ下った736mの二等三角点があった。山上で知り合った宮崎の人から速日の峰から諸塚山へは六峰林道が出来ているとのことで、下山後国道へ下り川水流から橋を渡り桑水流經由六峰林道を走り、速日の峰の近くのETOランド(干支)へ行き、所用後人工スキー場から茂った尾根筋道

をコブを三つ越えてS58年登った一等三角点へ再度登頂。下山後諸塚山へ。北方町は町長が延岡藩の天文方の子孫だったので町内を十二地区に分け、干支の町としてPRして遊園地・スキー場も干支をEVERGREENとTraserの頭文字をとりEtorandとしたとのことが館内に表示してあった。諸塚山は附近の最高点で古来信仰の山で、麓に社があり、標高1,342mの二等三角点があり、登山口15:30山頂16:10で登路は丸太の段が何百段もあり足腰が疲れた。下山後日の影町へ林道を下り、日の影駅の温泉に入浴後車泊。23日延岡市の名山行勝山へ。神社の奥の裏に登り829mの二等三角点へ、展望は絶景、日向市長の母親と友人の女性と知り合い歓談後山の家經由旧道を経て下山。昼食後可愛山へ向かったが時間なく宮崎港經由23日大阪南港上陸、帰洛。

【個人山行】

北山（・487m）と空鉢ノ峰（・682m）

OB 河村 清

11月25日、竹田駅7:05出発、国道24号線を南下、玉水交差点を左折、玉川沿いに田村新田集落經由和束町へ入る。白栖集落手前2k程のヘーピン付近で茶畑作業道に乗り入れ登り口を探す。丁度駐車点の後ろに踏み跡を見つけ9:10に入る。すぐ藪となったが間もなく作業道よりの道に出られてやれやれだった。

その後は左側に踏み込めるところを探しながら歩くこと約30分、この尾根と思って藪を登る。ひと登りで頂上らしき場所に着く。整地をして祝杯をあげたがどうも地形図と一致しないことに気づき下山、来た道を引き返し谷を隔てた隣のピークへ藪を漕ぐ。今度は少し時間がかかったがそれらしき頂上に着く。入念に地形図を読み地形図と同定すると判断を下し、改めて2人で整地握手を交わして11:00駐車点に戻る。

下山の駄賃に四等三角点（483.9m点名・白栖）を稼ぐことになり再度ヘーピン付近に駐車、茶畑を登る。途中、作業中のご夫婦に四等の山名を問えば『岩木戸』と呼ぶと教えられ何か得をした気持ちになった。

茶畑の上限より踏みあとをたどり数分で保護石に囲まれた可愛い三角点に到着、軽く一山を稼いだ。下山道でお茶の花を珍しそうに眺めていたら、先程のご婦人が持ち帰ってもいいよと言って作業の手を休め手折して頂き気さくなお方だった。平日なのに山歩きなどができて羨ましいなどと言われながら車に戻る。

次の山鷲峰山へは白栖集落を抜け犬打峠經由して金胎寺参道入口に駐車、参道を登り総門を潜り今盛の紅葉の下で遅い昼食をすます。快晴の下風もなく静かな一時を過ごす。

食後、京都府の山内案内板に鷲峰山最高峰『空鉢ノ峰』（くはちのみね）686.9mと記入されて

いる。地形図2.5万『笠置山』は682mである。権威ある地理院か、地元かどちらを信頼するかと談義しながら一段上の本堂へ登る。多宝塔、大師堂、行者堂などを巡拝し、さらに老杉巨楡の中を空鉢ノ峰へと登る。

山頂は平坦地となり、中央には正安2年(1300年)在銘のみごとな宝篋院塔が一基、周囲は草原でその外郭は木立に囲まれて展望は効かないが山頂として申し分のない頂きであった。寺院巡拝を好む愚妻も一度登頂させねばと思った。

して、空鉢ノ峰の由来は『新撰京都名所圖會』より抜粋

「寺伝によれば、ここは泰澄法師秘蔵の鉄鉢(食物を入れる器)を埋めたところと伝える。『元享釈書』巻十五によれば釈泰澄は身は山中にあって修行しつつ、空腹となると鉄鉢を空に向かって放り投げると鉢はみずから空中を飛び去り、施物の米飯を入れてふたたび戻って来たといふ。」

なお、大師堂左側より琵琶湖及び三上山(方位27度)が遠望でき好天に恵まれ、由緒ある山頂を後に2人は満足して下山、犬打峠まで引き返し右折、府道62号を走り宇治川宵待橋経由して宇治橋を渡り、醍醐駅15:40到着、解散す。

【参加者】 伊藤潤治、河村 清

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2193	権現山	11月7日		大槻 雅弘	井戸, 方山, 坂井, 古市, 和田, 竹田, 他1名	(別稿詳報)
2194	続・蔵王周辺の 山々	11月9日 ~12日		三橋 勉	伊藤 潤治 他2名	(別稿詳報)
2195	(変更) 越前甲と荒島岳	11月13日 ~14日		吉田 武	森本 清一	(別稿詳報)
2196	三峰山と古光山	(変更) 12月6日		井戸 澄夫	鷺見(壽), 原田, 小森, 田村, 竹田	(別稿詳報)

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
網野町の最高点 切畑の権現山 465m と小原山二等 371.7m	10月29日	晴	伊藤 潤治 河村 清 三橋 勉	綾部から舞鶴自動車道を4キロほど行くと新しくできた北部縦貫道で、由良川の175号線に出る。そして宮津から峰山へ、久次岳の北に位置するこの山に、地元の人から教えてもらい切畑のお寺の横に駐車。西北からの林道に入る。途中のお地藏様のある所で左へ曲がり谷を詰める中のお地藏様のある所で左へ曲がり谷を詰めると、尾根に出て鳥居があった。昔、信仰のあった山らしく古い道がついていた。高度を上げて行くと北にアンテナのある西山が見えた。15分程で頂上に達した。お宮さんが祀ってあった。元きた道に戻って、峰山から弥栄町に入ると、吉沢の先から左にお寺に登る道があり、お寺に駐車。お寺の裏手から山道に入るとやがて林道に出て、その先をなおも進み回り込んだ所で、尾根に向かってヤブコギをしながら10分程登ると二等三角点に出た。
九州の山旅	11月18日 ～23日		坂井 久光	(別稿詳報)
ブナノキ峠 △939m	11月21日	曇り 時々 時雨	山元 誠一 他2名	紅葉の時に、北山の静かな山に行きたくて、演習林を訪れました。 美山町の茅葺き屋根の家々を見送り、演習林の入口へ。長い林道歩きを強いられましたが、 時雨にうたれた紅葉は色鮮やかで十分に目を楽しませてくれました。 ブナノキ峠の頂上付近は、おりからの寒波の影響でうっすらと雪化粧していました。 当初は、傘峠、八畝山を縦走する予定でしたが、帰宅時間を考えて、傘峠手前で引き返し、元来た道に戻ることとしました。 ブナノキ峠頂上下のブナの大木、登り口のケヤキ、林道入り口付近のメタセコイアの並木と多くの原生林が見られました。
北山と空鉢ノ峰	11月25日		伊藤 潤治 河村 清	(別稿詳報)

報 雜

△△△ 12月の集会

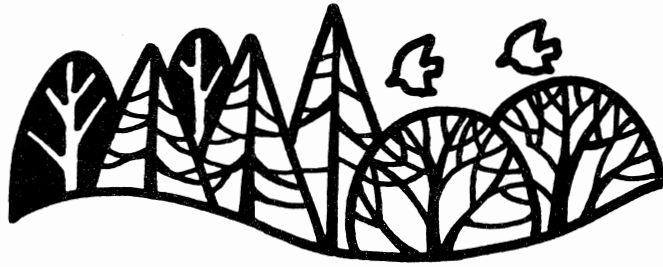
日 時 12月10日(木) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 (本局) 井戸, 山元, 和田, 松浦, 方山 (高速) 大倉
(市役所) 竹田 (OB) 坂井, 河村, 渡辺, 岡田 以上11名
内 容 例会報告他

△△△ 11月の企画運営委員会

日 時 11月20日(金) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋, 山元, 山岡
内 容 例会予定, 岳連関係報告他

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

11月分 木雞, 山友, わっぱ
12月分 近畿山行, 比良山岳, 北山, 趣味の登山, 木雞, 京都山岳, 青嶺



家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎ 601-8121 電話 (075)672-6101(代)
FAX (075)661-7332

八坂運送有限公司

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4
TEL (075) 571-1108

帆 布 ・ 濾 布
テント ・ シート
雨 合 羽

木村工業有限公司

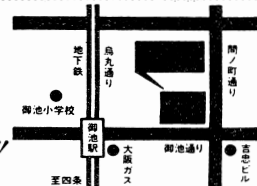
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カーブーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



LODGE 株式会社 **ロッジ**

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US製用品
ポータスカウト用品

mountain

〒 604-0931 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548

営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

あけまして
おめでとうございませす
本年も何卒よろしく
お願い申し上げます

己卯元旦

株式会社 北斗プリント社
〒606040 京都市左京区下鴨高木町スーニース前
TEL (075) 791-6125(代) FAX (075) 791-7290
E-MAIL hokuto@ja2.so-net.or.jp

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、5万・2万5千とも全国を常備しております。

 小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒 600-8174 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)
☎ (075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成11年 1月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部